

2025 アトウトウミャンマー スライド説明文

スライド 1

これから、アトウトゥミャンマー こどもといっしょプロジェクトについて説明したいと思います。
皆さんは、今日は、ご飯を食べましたか？

ミャンマーからタイへ引っ越ししなくなっただ子どもたちが、安心して遊んだり、勉強したりして、将来は、行きたいところへ自由に行けますようにと祈る、それがアトゥトゥミャンマーです。写真にはお昼ご飯を食べている子どもたちがうつっています。このお友だちは、皆、ミャンマー出身ですが、ミャンマーで暮らすことが難しくなったので、お隣のタイという国にきました。今は、教会がやっている学校で勉強をしています。

スライド 2

まず、ミャンマーってどんなところか、少しだけ説明します。地図を見てください。ミャンマーはインド、バングラデシュ、中国、ラオス、タイの五つの国に囲まれた国です。

ミャンマーは暑い国で、雨がたくさん降る雨季と、雨が少ない乾季に分かれています。春、4月ごろには、黄色いパダウという花がたくさん咲きます。

ミャンマーにはたくさんのグループの人々が住んでいます。その数は135以上。ビルマ人、カチン人、カレン人、チン人…。皆違う言葉を使って生活し、着ているものも違います。そうミャンマーはとってもカラフルなところですよ。

スライド 3

今から35年ごろ前まで、ミャンマーはビルマと呼ばれていました。長い間、イギリスに支配されていました。日本は、戦争中にビルマへ行き「イギリスから助けてやるぞ!」と言いました。でも日本は戦争に負け、ビルマはイギリスの支配になりました。

ビルマが独立するために、軍隊がないとダメだ、と人々は考えてきました。

けれども、1980年代になって「みんなの声で国を作りたい」という声がどんどん強くなりました。若い人たちが一生懸命に訴えました。でも、平和のリーダーは捕まえられ、長い間、閉じ込められていました。

今から15年前、そのリーダーも解放されました。やっと話し合いで国を作る仕組みができ始めたのです。

ところが、2021年2月、また軍隊の力が強くなり、たくさんの人が殺されたり、傷つけられ、村を追い出されたり、学校に行けなくなっていました。

スライド 4

さて、皆さんは、ラーメンは好きですか？ミャンマーにもラーメンがあります。ミャンマーには日本で食べられている納豆と同じような料理もあるのですよ。いくつかミャンマー料理を紹介しています。モヒンガーはお魚のだしでその上にいろんなスパイス、揚げ物、卵をのせて、レモンやライムを絞って食べる米粉のラーメンです。辛いものもあれば、甘いものもあります。ラペイエは、ミャンマー紅茶です。甘くしてください、というと、びっくりするぐらい甘いお茶が出てきますよ。

「ご飯食べた？」というのはビルマ語の挨拶です。食べていない人がいると、一緒に食べましょうと、助けてくれるのです。「タミンサービービーラ？」それは愛の言葉ですね。

大人も、子どもも、普段はサンダルを履いています。子どもたちは学校へ行く時には、緑色のロンジーという巻きスカートを巻いたり、スカートやズボンを履いています。日本は4月に学校が始まりますが、ミャンマーは6月です。3月～5月はとっても暑いので、ミャンマーの夏休みなのですね。

スライド5

2021年軍隊が武器を持って町中を歩き回り、戦車が道を走り、戦闘機が空を飛びました。軍事クーデターというのはルールを無視して、暴力で人々を怖がらせて国の大事な仕事を横取りすることです。たくさんの人々が「クーデターをやめてください」と勇気を出して言いました。でも軍隊に反対する人々は、武器で殺されてしまいました。

スライド6

子どもたちも学校に自由に行けなくなりました。学校に行っても、「軍隊は素晴らしい」ということばかり習わされました。「それは嫌だ」と一生懸命にお願いしました。全国で100万人のひとと一緒に「クーデターは反対」「捕まえた私たちのリーダーを返してください」と言いましたが、軍は攻撃を強くして、たくさんの人が傷つけられました。

スライド7

クーデターを起こした人々はどんどんその力を強くして、学校や、病院、子どもたちが遊んでいるところにも爆弾を落としました。たくさん子どもたちが、ご飯を食べることができなくなりました。おうちの人は悲しみながら、子どもたちを連れて、森に逃げていかなければなりませんでした。時には、キリスト教会の礼拝堂で、隠れていました。そこもまた攻撃されてしまいます。どんどん遠いところへ行かなければならなくなりました。

スライド8

ミャンマーでクーデターが起こった時に、日本にいたミャンマーの人たちは、とても悲しい気持ちになりました。またミャンマーにいる人たちからも、「お祈りしてほしい」とお願いが来ました。「みんなでお祈りを続けよう」と、日本の教会の人たちはオンラインでお祈り会を始めました。それが「ミャンマーを覚える祈り会」です。

そのお祈り会は今でも続いています。「この祈り会が、今度はミャンマーの人と一緒に平和を求める集まりになったらいいなあ」という素敵なアイデアが出ました。こうして、アトゥトゥミャンマーができました。

アトゥトゥは「いっしょに」というビルマの言葉です。アトゥトゥミャンマーはささげられた献金を大切にミャンマーの一番困っている人たちに届け始めました。

スライド9

アトゥトゥミャンマーから届いたお金は、ミャンマーで、森に逃げているひとたちの食べ物や、着る物を買って配るのに使います。また、日本語を勉強したいと思っているミャンマーの人たちのために使っています。日本でも活動をしています。日本にいる人々にミャンマーのことを知ってもらうイベントをしたり、ミャンマーの人が困った時には通訳をしたり、代わりに手紙を書いたりします。そして毎週の祈り会をしています。

2025年1月からは、アトゥトゥランチというこどものためのプロジェクトが始まりました。ミャンマーからタイへ逃げてきた人たちがたくさん住んでいるメーソットという町に「ヘブンゲート学校」があります。そこには、180人の子どもと、20人の大人がいます。その200人のお昼ご飯を、アトゥトゥミャンマーからの献金で作れるようにというプロジェクトです。

スライド10

毎週3回ほどの給食を、2025年1月から続け、2025年7月現在、51回の給食をアトゥトゥが支えて

きました。アトゥトゥランチがあった日には、どんなメニューだったか、子どもたちがどんな風に食べたのかを知らせてもらっています。献金してくださった方は、そのメニューを見て、自分も同じものを作って食べてみようとしたりします。本当に、「いっしょのプロジェクト」ですね。スペシャルメニューの時には、たっぷりの野菜や卵がのっているカレーでした。みんな大喜びです。このランチを支えるためには、給食を作る調理室をきれいにし、子どもたちが安全に学校にこられるようにスクールトラックを修理する必要がありました。それもアトゥトゥからサポートを送りたいと思います。

スライド 1 1

ミャンマーはクーデターがあり、2025年3月28日には大きな地震もあって、人々が悲しくて、苦しくて、泣いているところ、と思っている人が多いです。その通り、とても辛い時です。でも、同時に、あきらめないで、みんなで協力して平和になりますようにとがんばっています。

いのちのために祈ること、いのちのために私たちが何かやってみること、これはイエス様が教えてくださったことです。

スライド 1 2

アトゥトゥミャンマーに参加するのは難しくありません。皆さんが、夜、寝る前に、少しでも時間を作ってください。そして、ミャンマーのことを思い出して祈ってください。その時、あなたも、アトゥトゥミャンマーの一人です。その時、あなたも平和をつくりだす一人です。

おしまい